

技術士 2 次試験に合格して



油川 曜佑

(あぶらかわ ようすけ)

勤務先

株式会社 北開水工コンサルタント

河川管理部

〒080-0314 北海道河東郡音更町共栄台西 11 丁目 1 番地

TEL 0155-31-6171 FAX 0155-31-6214

E-mail y-aburakawa@suiko.jp

■ 専門：建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)

私は、石原裕次郎さんの「小樽のひとよ」や運河、潮まつり等で知られる小樽市で育ちました。

小中高はサッカーに明け暮れました。大学では純粋科学に興味があり理学部で化学を専攻、化学全般に関する基礎理論から高度な実験まで幅広く学びました。学部・修士課程で所属した研究室では物理化学を専門に難解な数式と化学反応式、試薬と実験装置に囲まれ、朝から晩まで化学漬けの毎日を過ごしてきました。ご縁があり、現在の会社に採用していただき、2003年4月の入社以来、河川管理施設の維持管理や河道計画、洪水時の調査・水理現象解明などに取り組んでおります。

技術士資格を知ったのは、入社してからです。建設コンサルタント業界では必要との噂を耳にし、20代後半に技術士補を取得、2次試験は30代前半から挑戦し始めました。しかし、社会人になってから河川分野に取り組み始め、学生時代は河川工学や水理学・測量学はおろか、土木工学という学問があることすら碌に知らなかった、不勉強極まりない人間が易々合格できるほど甘くはありませんでした。また、ちょうどその頃伴侶に恵まれ、30代後半まで2～3年のペースで家族が増えていくなか、仕事と家庭と資格勉強を両立することが能力的に難しく、気が付けば不合格のまま40代前半を迎え、初受験から10年余りの年月が経っていました。

仕事で名刺を交換させていただく同世代や私よりもはるかに若い技術者の方々が技術士としてご活躍される一方、自分は己の人生にゼロを加算しながら現状を肯定する日々。でも本当は、都合の良い言い訳を繰り返して現実から背を向け、否応なく年齢を重ねていく未来は虚しくもあることを私は知っていました。そして、ある人の「何かを始めるのに遅すぎることはない」との言葉を思い出し、それまでの甘さをかなぐり捨て、真剣に頑張ろうと強い決意

を胸にしました。会社で開催される勉強会への参加を始め、ボイスレコーダーにセンテンスやキーワードを吹き込み、出勤や出張時に聞きながら移動するなど、朝昼夜問わず空いている時間帯を見つけ励みました。また、休日や祝日は、これまで全く接点のなかった図書館に出向き、インプットとアウトプットを繰り返し行いました。

R2年度の筆記試験は変則的に実施されましたが、最後まで集中力を保って問題と対峙し、フォーラムエイト行きのチケットを獲得することができました。

□頭試験対策ではコンピテンシーを中心に想定問答集を作成し、また、先輩技術士に直前まで特訓してもらい弱点の克服に努めました。当日は受付後、試験まで時間があつたので、最後の練習のため会場向かいのカラオケボックスに入りました。まずは景気付けにと1曲熱唱するも止まらず、結局、小一時間程度一人カラオケを楽しんで終わりましたが、それが功を奏したのか、声の通りが気のせいかな普段よりも良く、終始リラックスして回答できました。

随分と長い年月を要しましたが、今回、技術士に合格できたのは最後まで諦めなかったことに尽きると思います。しかし、この合格は決して自分一人では成し得なかったものです。これまで自分を指導し育てていただいた会社の方々、そして何より、どんな時も絶えず笑顔でエールを送り続けてくれた妻と子供たちのお陰であると実感しています。

これから技術士を名乗ることで、社会的責任が今まで以上に重くなります。しっかりと倫理観を持って、専門知識や技術の習得・向上に努めていく所存です。そして、今後も多くの人たちとの「絆」を大切にしながら、まだまだ未熟者でございますが、社会に貢献できればと思っております。